令和６年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立入谷中学校
校長　小出　泰隆

1　学校教育目標

進んで自らをきたえ、将来の自己実現のために意欲的な人間を育てる　1　自ら学び、深く考える人。2　きまりを守り、思いやりのある人。
3　体をきたえ、ねばり強い人。教育方針　笑顔があふれる、生徒一人ひとりの居場所がある学校

2　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○明るく笑顔があふれる学校　○規律ある、安全・安心な学校　○自分の居場所がある学校
○児童・生徒像	○自ら学び、自ら発言、自ら行動する生徒　○笑顔で挨拶がかわせる生徒　○人とのコミュニケーションが取れる、自己肯定感と自尊感情が高い生徒
○教師像	○学ぶ意欲を引き出し、深く考えさせる授業を実践できる教師　○常に危機感を持ち、課題解決に向け、組織的に行動できる教師 ○公平・公正で保護者・地域から信頼される教師　○自己の授業力向上を常に目指し、日々研修・研究を実践する教師

3　学校の現状及び前年度の成果と課題

学校の現状：コロナが５類に移行され、教育活動が計画通り実施され、生徒はメリハリのある学校生活を送ることができた。生徒と教員の関係も良好で大変落ち着いた学校生活を送ることができた。「できるを増やす」を合い言葉に、小規模校の強みであるフットワークの軽さを活かし、「わくわく学習プロジェクト」と称し、様々な補充に取り組んでいる。定着度確認テスト、区調査においても達成基準に達しておらず、学年によっても差が出てきている。学校不適応生徒の割合が多く別室登校対応を組織的に行う必要がある。地域の行事も徐々に復活してきている。

【前年度の成果と課題】

成果　○生徒会活動が自主的に行われ、生徒会朝礼が充実した。（先生講話・校歌斉唱など）
○「わくわく学習プロジェクト」を計画的に実施しているが、区調査、学校独自の年度末確認テストにおいても正答率が伸び悩んでいる。生徒の実態に即した、補習の実施方法・内容の再検討を行う。「読書の時間」年間の実施。貸し出し数が一気に増えた。また、ブックトークを行い、表現力の育成にも取り組んだ。
○体力向上として、「入谷中体操」が定着してきた。
○計画的、組織的に LGBTQ を中心に多様性について理解を深める取り組みができた。学校の決まりの内容について必要性など一緒に決めることができた。

課題　○「わくわく学習プロジェクト」の実施方法・内容を生徒の実態に即したものに変更し、学力の定着を図る。
○足立スタンダードを定着させ「ねらい」と「振り返り」を徹底する。１人１台のタブレットを取り入れた授業を展開し、授業改善、評価活動の実施。
○心の教育として、いじめや不登校生徒の支援をさらに関係機関も含め、深めていく。
○障がい者スポーツボッチャの普及を継続し、障がい者理解を深める。

○保護者・地域の協力をもっと得られるよう情報発信をしていく。（ホームページの充実）生徒数の確保。

4　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	心の教育　（一人ひとりの居場所がある学級・学年　自己肯定感と自尊感情の大会生徒の育成）	○	○	○	○	○
3	豊かに生きる生徒の育成（国際的・文化的・健康的に生きる教育の充実）	○	○	○	○	○

5　令和６年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

A　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
授業改善と実態に即した補充による確かな学力定着	令和６年度　区学力調査 通過率　５０％ 年度末到達度確認テスト 正答率　６０％	令和６年度　区学力調査 通過率　５８．９％ 年度末到達度確認テスト 正答率　●●％（２月に実施）	全学年の平均は 58.9％で目標はクリアできたが２年生の数学、英語は４２．１％と達していない。さらなる底上げが課題である。	◎

B　目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善	全教員	毎日	・足立スタンダードの徹底 ・１人１台のタブレットを取り入れた授業展開 ・個別最適な授業実現	授業観察 各学力調査 定期考査 生徒による授業アンケート	学力調査正答率 ５０％以上 肯定的な意見９０％	学力調査正答率 ５７％ 生徒授業アンケート 肯定的な意見９０％	生徒も意欲的に参加し落ち着いた雰囲気で授業ができている。グループ学習等に課題が残る。	◎
2 継続	朝学習	全学年 英・数	毎日	毎朝、英語と数学の基本的な内容を実施。結果のデータを残し、放課後の補充につなげる。	英単語・計算コンテスト	正答率７０％以上	問題を自校で作成。採点、結果を記録し生徒の学習の習得度を把握することができた。	既習の復習をさせることで、自己の習得度を把握させ、自信や危機感を持たせることにつながった。	◎
3 継続	読書の時間	全学年	週３回	放課後の補習の実施がない日に１６：００までは図書室で読書をする。	来室状況の確認　貸し出し 図書の増冊	生徒一人あたり年間貸し出し数１０冊。	様々な関係で思うように実施できなかった。	生徒の主体性に任すと利用率が下がった。読書習慣の二極化が進んでいる。	△
4 継続	わくわくクラブ	全学年 英・数	週２回	朝学習の結果中間層は教科担当、下位層は学年教員と上位層が補充に当たる。	定期考査 年度末到達度テスト	正答率 60％ 定期考査正答率 ３科平均 60％	本年度、実施方法を変更。朝学習の結果から生徒の教え合い活動を実施。	習得できている生徒は人に教えることで自信につなげることができた。	変更
5 継続	わくわく補習教室	全学年及び正答率６０％未満対象　５教科	考査前 面談週間	テスト範囲の復習・質問教室。短縮授業時の補充教室	定期考査 年度末到達度テスト	正答率 60％ 定期考査正答率 ３科平均 60％	年度末到達度テスト 平均正答率●●％	計画通り実施。生徒の参加率が高かった。	◎
6 継続	サマースクール	全学年 希望者 ５教科	夏休み ６日間	前半期の内容でのつまずきの解消および定期考査での理解不足を補充	漢字・英単語・計算コンテスト	定期考査正答率 ３科平均 60％ 正答率 60％	漢字・英単語・計算コンテスト 平均正答率５５％	二極化が激しい。家庭学習の取り組みの差が顕著である。	◎

7 継続	夕焼け教室	全学年	放課後毎日	放課後の図書館で自主学習	利用人数把握	各学年２割以上	考査前、受験期に集中。平均２．５人	啓発継続。	○

重点的な取組事項－２	心の教育　（一人ひとりの居場所がある学級・学年　自己肯定感と自尊感情の大会生徒の育成）

A　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小規模校の強みを活かし、全教職員で全校生徒の生徒理解を深め、生徒に学校生活の中で役割を果たし、達成感を味合わせ、自己肯定感を高め、自己実現に向けて意欲を育てる。	保護者、生徒学校評価アンケート「学校はいじめのない学校づくりに努めている」「教員の対応は丁寧である」肯定的な意見９０％	保護者、生徒学校評価アンケート肯定的意見 いじめ　　８９％ 教員の対応　９４％	校長の学校方針を教職員が具現化している。継続実施。	◎

B　目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権教育の充実	○道徳授業時数確保 ○道徳授業地区公開講座の開催 ○多様性理解の研修	１「考える道徳」「議論する道徳」など道徳授業の充実 ２性の多様性だけでなく、様々な多様性について考えを深める取り組み	・ICT の活用により、全体の意見が瞬時に集約することができ、様々な意見交換が可能になった。 ・学校の決まりなど、生徒自身が考えを深めた。	道徳授業地区公開講座の協議会に多数の保護者の参加があり、道徳授業について意見交換が行えた。	◎
生徒理解の充実	○年３回の教育相談の実施 ○週１回の生活指導部会･特別支援委員会の実施	１ＳＣよる全学年面接。 ２校長面談（通年全生徒） ３教育相談（3 回・全教員） 生活指導部会、特別支援委員会で情報共有	１，２，３と計画通り実施	小規模校の強みを活かし、全職員で全生徒理解を進められた。継続実施。	◎
学級経営の充実	○行事後の事後学習発表活動 ○年２回の QU の実施 ○個別支援計画の作成	①校内研修でＱＵ講習会。分析結果の情報共有 ②個別支援計画の作成、特別支援教室と連携 ③目的を明確にした学年行事の運営（事前学習・発表を含めた事後学習）	全て計画通り実施。 ①QU の校内研修はますます充実しているまた、要支援の生徒への聞き取りも実施することができた。 ②特別支援教育の啓発。 ③行事の事後学習を全校生徒に公開を実施。	特別支援委員会の週１回に実施。全担任が参加することにより特別支援教室との連携がスムーズにでき支援計画の見直しなどスムーズにできた。継続実施。	◎
小中連携の充実	○年間７回の連携の取り組み ○児童生徒によるアンケート満足度８０％	１年６回。授業検討協議会。 ２中学校体験入学の実施 ３合同研修会　行事の共有	１　年間７回実施 ２　２校と実施 ３　SC による講演会を実施	テーマに沿った授業公開が実施でき成果と課題を共有することができた。	◎

生徒会活動の充実（ボランティアマインドの醸成）	○実施後のアンケート満足度９０％	１生徒会朝礼（１０回） ２朝のあいさつ運動 ３ボランティア清掃活動 ４花植え活動 ５ＰＴＡ・地域行事への参加	１～５まで計画通り実施。 PTA 行事が復活し、ボランティアかつどうに多くの生徒が参加した。	年々ボランティア活動が活発になってきている。継続。	◎

重点的な取組事項－３	豊かに生きる生徒の育成（国際的・文化的・健康的な教育の充実）

A　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
グローバルな思考と、日本人としての誇り、豊かなスポーツライフを実現し、生涯にわたる健康・体力の保持増進する態度を育て、より豊かな生き方の自己実現を目指す。	学校評価　保護者アンケート 「経営方針は本校の実態に合っている」肯定的意見　９０％	学校評価　保護者アンケート 肯定的意見　８６％	保護者の方には理解を得ている。生徒の将来を見据えて様々なことに取り組んでいく	◎

B　目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
オリンピック・パラリンピック教育	生徒アンケート肯定的な意見９０％	パラスポーツの普及による障がい者理解	「ボッチャ」を小学生の体験入学時に実施。	小学生全員が体験し、パラスポーツの普及につながった。	○
体力・健康の保持増進	○体力テストの結果 全種目平均以上	１入谷体操の導入。体育科を中心に運動部においても、準備・補強運動を工夫 ２体力テスト結果の分析・日常生活への活用	１運動会で実施。 ２運動習慣の二極化が進行。	入谷中の伝統として定着してきた。今後も継続実施。	○
「食育」活動	○「食育便り」の発行 ○授業、試食会、研究発表の実施	１栄養士の食育啓発活動。 ２栄養士、養護教諭による授業実施 ３給食試食会１回 ４保健給食委員会文化祭研究発表	１給食便り「すくうるらんち」を給食ごとに発行。食材、食文化について啓発できた。 ３　試食か会はPTAの都合により中止。 ４　成果発表会で実施。	正規の栄養士が育児休業中ではあるがクオリティが下がらず継続できている。継続実施。	◎
キャリア教育	○各学年の校外学習の実施。	発達段階に応じた取組 １年 職業調べ　エコプロ ２年 職業体験　ＴＧＧ 上級学校訪問 ３年 進路対策（自己PRカード）	上級学校訪問以外計画通り実施。 ３年　PR カードにより校長面接実施。	自分の将来について考えを深める有意義な体験となった。今後も継続していく。	◎

6　まとめ

（1）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

〇重点的な取り組み事項－１ ～学力向上アクションプラン～

学校評価生徒アンケート「各教科は工夫されてわかりやすい」という設問で全教科９０％以上の肯定的意見であった。授業は落ち着いた雰囲気の中で実施できているが学力の定着に至っていない。学力向上アクションプランの取り組みには、生徒は意欲的に参加している。また、数字的結果だけでなく、区学力調査意識調査の結果を一覧表にまとめ、教職員に配布し、生徒の実態把握に努めさせた。

＜課題及び解決の方向性＞

＜課題＞

区学力調査、年度末到達度確認テストとも達成基準をクリアできた。しかしまだ伸びしろがある。習得に時間がかかる生徒も多く、なかなか活用、探求まで至らないことが多い。生徒の実態に合ったきめ細かい補充の必要性がある。

＜対策＞

足立スタンダードを基本に主体的・対話的に学ぶ授業を展開し、ICT を活用し生徒の興味・関心を高め、授業改善をさらに進める。

「学力向上アクションプラン」は生徒の実態に合わせて実施することが必要不可欠である。既習の基本的な学習内容を朝学習で繰り返し実施した。その結果、生徒自身に自己の学習定着度を把握させ、自信と危機感を持たせることができた。継続して朝学習の時間を活用し実施していく。

〇重点的な取り組み事項－２ ～心の教育　一人ひとりの居場所がある学級・学年　自己肯定感と自尊感情の高い生徒の育成～

小規模校の強みを活かし、道徳授業、教育相談、WEBQU を通しての全教職員で全校生徒の理解を深めることができた。特別支援教育も週１回の特別支援委員会で通常学級と特別支援教室の連携を図ることにより、合理的配慮個にあったきめ細かい支援を行うことができた。不登校生徒にもきめ細かい支援を組織的にできた。小中連携教育はテーマ「主体的に問題を見出し、解決できる児童生徒の育成」に沿った公開授業を行い、成果と課題を共有することができた。

＜課題及び解決の方向性＞

様々な方法で生徒理解を進め、課題がある生徒の対応を検討する。また道徳の授業で「考え、議論する道徳」を実践し、様々なことを考えることができる心の素地を創る。学力の定着、向上と共に小規模校の強みを活かし、生徒と向き合う時間を確保し、生徒一人ひとりにきめ細かく、丁寧な指導・支援を全教職員で推進していく。

〇重点的な取り組み事項－３ ～国際的・文化的・健康的な教育の充実　　（豊かに生きる生徒の育成）～

パラスポーツ応援校としての取り組みの成果を活かし、障害者理解を進め、オリ・パラ教育を進めてくることができた。また「入谷中体操」が定着し、体力向上の意識を高めることができ、豊かなスポーツライフを実現することを期待している。キャリア教育ではほぼ計画通り体験活動が実施することができ、貴重な体験ができた。

＜課題及び解決の方向性＞

〇知・徳・体のバランスの良い教育が求められる。教科の学習だけでなく、体力向上、キャリア教育を計画的にカリキュラム編成していく。オリ・パラ教育のレガシーとして「ボッチャ」の普及に取り組む。またＳＤＧｓを意識したカリキュラムに取り組む。

（2）保護者や地域へのメッセージ

〇学校評価保護者アンケート多くの肯定的なご意見をいただきました。大変うれしく思っています。１人に１台配布されるタブレットを活用し家庭学習だけではなく、ご家庭との連携にも役立てていきたいと思っています。良いところはさらに伸ばし、改善すべきところは改善できるように取り組んでまいります。今後ともご協力をお願いいたします。

〇いつも子供たちを温かく見守っていただきありがとうございます。地域の学校として自慢できるよう取り組む所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

（3）その他（学校教育活動全般について）

〇多様性理解の取り組みにより、学校の決まりを変えていきます。男女の枠を超えて、社会の変化に対応してまいります。